

## 総合教育会議(第2回) 議事録

- 1 日 時 令和7年2月19日(水曜日)13時30分から15時30分まで
- 2 場 所 佐世保市役所5階 庁議室
- 3 出席者 宮島市長、陣内教育長、松野教育長職務代理、古賀委員、中村委員、西沢委員
- 4 事務局 田所総務部長、大藤教育総務部長、富野学校教育部長、鳩山学校教育部次長兼学校教育課長、木下学校教育部次長、溝口教育総務課長

### 【溝口総務課長】

定刻となりましたので、ただいまから、令和6年度第2回総合教育会議を開催いたします。

皆様におかれましては、大変お忙しい中、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。私は教育委員会総務課の溝口でございます。市長に議事進行を行っていただくまでの間、私の方で進行をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

会に先立ちまして、まず、本日お配りしております資料のご確認をお願いします。まず、A4縦の本日の会議次第、それから A4 横の説明資料、計2点でございます。お手元でございますでしょうか。

それではここで、会の主宰者であります宮島市長からご挨拶をいただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

### 【宮島市長】

皆様こんにちは。本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。また、日頃から本市教育行政の発展につきまして、ご指導と、またお力添えをいただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

さて、本日は、令和6年度の第2回総合教育会議を開催させていただきました。昨年10月2日開催の第1回総合教育会議では、ふるさと教育や子どもたちの心に寄り添う支援のあり方など本市独自の取り組みを中心に3つのテーマについて協議させていただきました。

教育長、教育委員の皆様から頂戴したご意見を受けまして、令和7年度の当初予算案におきまして、「特別支援教育補助指導員」、「スクールソーシャルワーカー」の増員や「少年科学館ふるさと未来事業」に係る経費を盛り込み、また、「コミュニティスクールと地域学校協働活動の関連経費」につきましては、実行力を上げつつ拡大・持続化を図るため、文科省コミュニティスクールマイスターを新たに導入する等拡充し、政策推進枠へ移行させていただいたところでございます。

本日の総合教育会議のテーマですが、全国的な課題となっております教師のなり手不足につきまして、本県・本市においても深刻な課題であると感じておりますことから、1つ目のテーマを「教師という仕事の魅力について」とし、次に、現在、学習指導要領の改訂に向けた協議が始まっていることから、教育委員会の皆様とこれからの教育の質について一緒に協議し、認識を共有して参りたいと思い、2つ目のテーマを「子どもを伸ばすこれからの学び」とさせていただきました。

短い時間ではありますが、今後の佐世保の教育の更なる発展に向け、有意義な会となりますよう、皆様

の忌憚のないご意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。

**【溝口総務課長】**

ありがとうございました。

それでは議事に入らせていただきます。

ここからは主宰者であります宮島市長の進行でお願いいたします。

**【宮島市長】**

ここから私の進行で会を進めてまいりたいと思います。

本日のテーマとしましては、『教師という仕事の魅力について』、『子どもを伸ばすこれからの学び』の2点を準備しております。

まず、教育委員会から、1項目『教師という仕事の魅力について』現状を説明していただき、その後、意見交換という流れで進めて参りたいと思います。

それでは1つ目のテーマ『教師という仕事の魅力について』ということで説明をお願いします。

**【鳩山学校教育部次長兼学校教育課長】**

説明資料「教師という仕事の魅力について」により説明

**【宮島市長】**

ありがとうございました。教師という仕事の現状や課題について説明していただきました。教師のなり手不足は一朝一夕に解消できるものではないとは思いますが、教育委員の皆様の中には元教師の方もいらっしゃると思います。それぞれのお立場から、教師という仕事の魅力や、なり手不足の要因は何なのか、ご意見、お考えをお聞かせいただきたいと思います。

まずは、松野教育長職務代理からお願いいたします。

**【松野教育長職務代理】**

それでは学校教育現場の立場から若干意見を述べさせていただきます。今ご説明がありましたように非常に厳しい現状があります。

教師という仕事の魅力はどういうものかと考えてみますと、百年の計は教育にありと言われるように非常に大切なものと認識しておりますし、これからの未来を担っていく子どもたちの成長に寄与できる喜びを感じる、やりがいのある仕事だと考えております。

仕事そのものは毎日、変化に富んでおりまして、その積み重ねが1年ひと区切りとなって、新たなスタートを切り、非常に限られた時間ですけれども、その中で、子どもを間近に感じ、学習面、生活面、あるいは部活動といったところで、学力の伸びや技能、心の成長といったものを実感できる素晴らしい仕事だと思っております。

大変な仕事ですけれども、私自身は振り返ってみると、やりがいという点も含め、トータルでは楽しかったなというところがございます。

なり手不足の要因という点では、ブラックイメージが先行して、それが浸透している現状はあると考えております。過去最多、過去最低といった表現がある中で、困難な状況が山積していると取られる部分も当然あるかと思ひますし、確かに現状は厳しい点もありますけども、頑張っている現状を見ると、まだまだやれることがたくさんありますので、そういったブラックイメージの先行をどうにかできないかと思うところです。

もう1点はやはり先生方に求められる資質能力という点で、それまで学生だった人が卒業してすぐに学級担任になるとか、ハードルが高いと感じるところがあるようにも考えられます。教師としての使命感、責任感もありますけども、それに教科、教職に関する専門的な知識は高いものを要求されますし、実践的指導力、総合的人間力やコミュニケーション能力、あるいは情報活用能力、いろんなものが重なってくることで、大変だなと感じると思われまふ。失敗できないプレッシャーもありますし、不安と心配があるというのが、給与面から考えると割に合わないといった印象になると思われまふ。

そういった点で手始めとしましては、高度の専門職としての職責にふさわしい処遇の実現といひまふか、給与体系も含めてやっていかなくぢゃならないんじゃないかと思われまふ。

それと今の学校の状況、教師の仕事をするすばらしさを伝えてながらも、安心感を与えるというのは非常に大きな効果があるんじゃないかと思ひております。以上です。

#### 【宮島市長】

ありがとうございます。

それでは続きまして古賀委員の方からお願いいたします

#### 【古賀委員】

それでは保護者の立場としてお話をさせていただきます。

先生が好き。授業が楽しい。授業が楽しいと勉強も意欲が湧くというループができてると私も授業を見てみたいと思ひまふし、子どもが魅力のある先生と保護者から見る魅力のある先生は違ふとは思ひまふますが、大好きな先生がたくさん増えてくれると本当にいいなあと思ひまふ。

小学校は特に、成長期、思春期や反抗期など子どもの成長には欠かせない時期になりますので、先生にもいろんな能力が求められます。人としての魅力がある先生、いろんなコミュニケーション能力が求められると思ひまふ。

先輩の先生方から教わることもたくさんあると思うんですけど、私も仕事上、教える方も難しい時代になってきていると実感してて、新入社員としての心構えも教えていかないといけないので、迎え入れる先輩方、校長先生たちのご苦勞もあるんだろうなあと思ひまふ。

盛り上がっている学校は校長先生がエネルギッシュで職員室の雰囲気も良い印象があるので、これからは先生一人一人ももちろんですけど、全体的な繋がりも必要になってくると思ひまふました。以上です。

#### 【宮島市長】

ありがとうございます。

次に、中村委員、お願いいたします。

#### 【中村委員】

経営者の視点からということなんですけど、先ほどの職務代理の話と重なるところもあるかと思います。先ほどおっしゃったブラックイメージの先行ですが、マスコミとして強烈なキャッチコピーがあった方が注目を浴びるので、強調され過ぎているというのは非常に感じています。

ただそれだけじゃなくて、社会全体の大きな波からいったら、民間企業が厳しいときは、公務員が流行る時期もあったんですけど、今は民間企業が初任給を 30 万円出すというような時代ですから、公務員や特に先生の仕事が、条件的には不利に見える時代だと思います。そんな時にブラック先行のマスコミ報道もあり、余計に厳しくなっているけど、公務員の時代が周期的に来るとは思います。ただ、今はそのままほっとくと、本当に先生のなり手が無いという時代だと思います。

市長が99の政策、1丁目1番地に「子育て支援と教育の振興」と掲げておられるように佐世保市としてやれることもあるんじゃないかなど期待しているところです。処遇の中には、国じゃないと決められない部分もあるかもしれないですけど、地元だからこそやれる、佐世保独自のやり方で子育て・教育環境がより良くなり魅力的な街になるように期待しているところでございます。

#### 【宮島市長】

ありがとうございます。

次に西沢委員、よろしく願いいたします。

#### 【西沢委員】

私の意見も総じて皆様方が述べられたのと一致はしているんですけども、教師という仕事の魅力というのは、お金みたいな物質的な還元ではないところがあると感じています。

新任教師の友人が言っていたことですが、子どもたちの発言や、成長していく姿から学ぶことがすごく多く、勉強になり楽しいと聞いたことがあって、それが印象に残っています。

教師という仕事は余りにも身近にありすぎる職業なので、注目されがちですけどもそういう心にグッとくるような成長や気づき、心が満たされる瞬間が多いのが教師の仕事の魅力なんだろうと、経験はしてないんですけども、外側から見て考えています。

そこでなり手不足の要因を個人的に考えたときに、複雑に絡み合っていると思うんですけども、そもそも、少子化・定員割れという観点からいくと、なり手不足は仕方ないのかなというふうに思っていて、定員割れに対する対策として中途採用や 1 度やめてしまったけれども、再度戻ってくる制度を整えるような違う切り口から切り込んでいくとか、あと、過労については、ICT化を進めるとかやり方はあるんじゃないかなと思っています。

なので、なり手不足の要因は一言では言いづらいんですけども、個別最適な教育を求められ、授業の質の改善を先生に求められる機運が高まっている中で、先生たちも、窮屈な思いをされてるんじゃないかと思っていて、内側からムードを高められていったら、なり手不足が少しずつでも改善しないかと考えておりました。以上です。

#### 【宮島市長】

どうもありがとうございます。

委員の皆様方のご意見を踏まえまして、教育長の方からお願いいたします。

#### 【陣内教育長】

まず現状ですが、先ほど学校教育課長が申しあげました通り、やはり厳しさが押し寄せてきている状況です。教員不足というのは相当に深刻な状況になってきて、元教師の立場から松野教育長職務代理、私も元教師ですが、保護者の立場から古賀委員さん、経営者の立場から中村委員さん、そして西沢委員さんからもっと広い立場からお話聞かせていただいたと思います。

委員さん方がお話になられたことを、ざっくり申し上げると、1 つは、給与含めての処遇の改善、もう 1 つは、働く喜び、働く意義、教師という職業のやりがいの部分。そしてもう 1 つは、働き方改革であったり、働きやすい組織づくりの 3 つになるんじゃないかなと話を聞かせていただきました。僕はこの 4 人の教育委員さんのお話を、さすがだなと思って聞かせていただいたんですが、くしくも令和 6 年に国が出した答申がまさしくその 3 つの視点だったんです。処遇を高めましょう、働き方改革を進めましょう、それと同時に、教育の質、やりがいを高めましょう。

処遇が改善されて、優秀な人材が集まってくる、優秀な人材が集まって働き方改革が進む中で、本当に子どもに向き合う時間が見つかったり、子どものための指導力を高める研修が充実していく。研修が充実していくことで、指導力が高まって、学校や教員の指導がより適切的確になる。そうするとやりがいも高まって、その中でまた、優秀な人材が集まっていくというこの 3 つが、1 つも欠けることのない状態になったときに、本当に教職員が充実していくという考え方になっています。

その中でも、働き方改革については、今回、国から注文がついています。国は処遇の方はしっかり見ていこうと思っていますから、その分、働き方改革を市町村でしっかりと整えていってください、となっています。それからもう 1 つの教育の質を高めるところは、今般、学習指導要領が改訂をされようとしておりますが、この改訂を気に大きく進んでいくと思っています。

この後の後段では、佐世保市としてできる処遇改善、働き方改革や教員としての指導力について、掘り下げていければ、ありがたいと感じているところです。

#### 【宮島市長】

教育委員の皆様方からは現状、ある種本質をついたご意見をいただき、誠にありがとうございます。

私からは、今、教育長が総括をしていただいた通りだと認識をいたしますが、重ねてお話をすれば、やはり処遇面については、国においても、教員の処遇改善に取り組んでおりますので、そのことを一定量としながら、今お話の通りに、教育委員会を中心として、本市としてできるものは、しっかりと対応していかなければならないというふうに思っております。

一方で、先ほど西沢委員などからもお話がございましたけれども、やはり教員については、経済面ばかりではないこともあろうかと思っております。

松野教育長職務代理がこれまでのご経験の中で、やりがいがあったとおっしゃっていただいたことを、大変うれしくお聞きをいたしておりましたけれども、おっしゃったようにやりがいを持ってやっておられる先生方もたくさんいらっしゃると思っています。

しかしながら、現場に入ってみると、大変ご苦労が多く悩んでおられる方もいらっしゃるんじゃないかと思っております。

そうした中で教育長がお話されたように、やはり働き方改革が重要じゃないかなと思います。DXなどもしっかりと進めながら、教育の現場、特に先生方の負担をできる限り減らしていくことに全力を挙げていく必要があるとも考えております。

もう 1 点は、教員不足の現状というお話がありましたが、これはもう教員に限らず、すべての職種において、人手不足が深刻であるということでもあります。その理由の中にある働ける方が、社会に出ていないことも大きな問題だと思っています。

教員を確保するというのは、非常に重要な問題であり、やはり日本という国が、これだけ世界でも冠たる国になれたのは、人という財産があったからにはほかならない。そして、その人を作るのは、教育であると思っています。これからも、教育委員会並びに教育委員の皆様方のご指導もいただきながら、教育の充実に努めていきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

それではまだ時間もあるようでございますので、今の 1 回目の各意見をお聞きになられて、2 回目のご意見をいただければというふうに思います。

まずは、松野教育長職務代理からお願いいたします。

#### 【松野教育長職務代理】

働き方改革については、これからしっかり取り組んでいかなければならないと感じるところでした。教師の働き方改革、働きやすさや働きがいを実現することが、より良い教育の実現に繋がると周知することが必要と考えますし、働き方改革で先生方が少しの時間でも効率的に使い、子どもたちと向き合うことは、一番大事なことで、その先生方のワークライフバランスを充実させるということがまず大事だと考えているところです。

どんな形で先生の魅力を伝えていくかということに関しては、先生方がそれぞれ自分の現場で、子どもたちと一緒に頑張っている姿、先生ってかっこいいよね、そういった印象に繋がっていくことが一番なのかなと思います。

例えば、教員の魅力発信プロジェクトということで、学校を回って教育職のよさを直接伝えたり、テレビですと、もっと広く伝わるんじゃないかなと思っています。

いろんなところで、周りからの声掛けや後押しをしてもらおうと先生になろうかと決断する人が増えてくるんじゃないかなと思います。以上です。

#### 【宮島市長】

ありがとうございます。

それでは続きまして古賀委員、お願いいたします。

#### 【古賀委員】

親身になってくれる先生、不登校などの厳しい現実をとらえつつも持続的な声掛けを行ってくれる先生、先生方の今の時代に合った子どもたちへの対応が必要とされていると思います。求められる教育や授業の姿を描き、教師のあり方を探求していくということが、先生たちもですが、保護者にも求められていると思います。

【宮島市長】

ありがとうございます。  
それでは続きまして中村委員、お願いいたします。

【中村委員】

テレビや漫画は、子どもにすごく影響を与えるなと思っていて、佐世保市立図書館や学校の図書館に教師を描いた作品を充実させるというプロジェクトをやってもいいんじゃないかなと思いました。

もう 1 つは地域を支える公的な仕事の方々、教師や公務員の方々に魅力的な待遇が用意され、国からの予算が地方に行きわたることが大切だと考えます。国・県・市のそれぞれができることを推進していただき、都市部の大手企業の待遇と比較しても魅力を感じてもらえるような環境を整えてほしいと思っています。以上です。

【宮島市長】

ありがとうございます。  
それでは続きまして西沢委員、お願いいたします。

【西沢委員】

佐世保市ができることとはと思い、働き方の面と広報の面の 2 つの軸で考えました。

いま、ICT化をすごく言われていますが、現場の先生しか分からない小さいものから大きいものまで、問題があると思うので、ヒアリングをして、困りごとを洗い出す。そこからルール化、マニュアル化されていないもの、制度化されていないものを洗い出し、フォロー体制の強化を図ってはどうかと思いました。

1 回目の意見から皆さんおっしゃっていますが、マイナスな報道がなされる現状というのは私も結構感じていて、教員不足、定員割れ、そういうインパクトのある報道がすくなくされているので、教師ってやっぱり大変なんだねとか、精神疾患で辞めた人が多いとかいうニュースを耳にするので、そういったニュースに対抗できるだけのプラスのポジティブな発信をできたらすごくいいなと思っています。以上です。

【宮島市長】

どうもありがとうございます。  
委員の皆様方のご意見を踏まえまして教育長の方からお願いいたします。

【陣内教育長】

働き方改革の話と、それからもう 1 つやりがいというところに関連して報道のあり方について私の方からお話させていただきたいと思うんですが、実際に、企業等の採用計画を見ると、採用者のうち 55%は新規採用をとります。45%は中途採用をとります。端的に言えば、人型雇用ではなくてジョブ型雇用にして、この人たちをどう使うかよりも、こういった仕事があるので、こういった人達をどこからどう補充してこよいかという新しい雇用形態に変わろうとしているんだろうと思っています、これが教員社

会にどう根付くんだらうかと思いました。

前日まで子どもとは全く接したこともなかった方が、急に4月1日からお見えになって、一旦補われる。それをうまく組み合わせなければならぬ時代が来ているんだらうと思います。

将来的にはそういったことを考えなければいけないと思うんですが、その前提として、今しっかりと定着させなければならぬのが、1つはDXであるし、もう1つは新しいマンパワー組織です。DXの取組みにおいて佐世保市で本格稼働した校務支援システムを使い、通知表を作ったり、指導要録を作り中学校か高校に送るとともに、一元管理するようになった。また、AI搭載ドリルをさらに充実させようと来年度予算要求してるところなんですけど、こういったものが進んでいくと、働き方として、省エネルギーそして高効率化が進んでいくと思います。

それからもう1つは人の問題として、いろんなマンパワーをいただいています。例えば特別支援教育補助指導員さん、学校司書さん、スクールソーシャルワーカーさん、スクールカウンセラーさん、ICT支援員さんです。これも国の方が、一定の担保はしていただいている、まず入れてくださいねという部分において交付税措置化をされています。是非入れてくださいという部分については補助制度を作っていってほしい。こういったところは積極的に活用していくのが大事なんだらうと思っています。こういったものを組み合わせながら、新しい時代の働き方、学校現場の働き方を作っていかなければならぬ。

また、先ほど西沢委員さんがおっしゃった、困っていることを吸い上げる制度が必要という話について、私も全く同じ意見で、今年から担任の先生や教務主任の先生方に来ていただいて困り事を言ってもらっていただく会を開催しております。また教育センターの方ではメンター研修制度を始めておりますので、そういった所を今後活用できてくれればよいなと思っています。

#### 【宮島市長】

今教育長の方から取りまとめていただきました。教育は人となりと申し上げますが、先生もやっぱり人となりだなあというふうにしておりまして、先生に憧れて教職に就いた方も、少なくないと思いますし、テレビや漫画の影響もあったんじゃないかと思っています。

中途採用の話もありましたが、雇用がこれだけ流動化してるので、可能であれば受け入れをする柔軟な仕組みが必要じゃないかなと考えます。

先ほど教育長から総括をいただいた通り、いろいろな意味での働き方改革や、質の問題、また処遇の問題、いろいろな形で解決ができるように、国、県にも働きかけを市長会などを通じて、しっかり行いながら、その改善に努めて参りたいと思っています。

それでは時間も過ぎましたけれども、次のテーマに移りたいと思います。

2つ目のテーマは「子どもを伸ばすこれからの学び」です。

昨年12月の中教審への諮問では、現在の課題として、学ぶ意義を十分に見い出せず、自律的に学ぶ自信がない子どもが多くなっているとありました。今後どのように子どもたちを伸ばしていくのか、まずは教育委員会より内容の説明をお願いします。

【鳩山学校教育部次長兼学校教育課長】

説明資料(2)「子どもを伸ばすこれからの学びについて」により説明

【宮島市長】

ありがとうございました。

2 つ目のテーマにつきましては、具体的な案を出し合うことはなかなか難しいと思いますが、その方向性については、私と教育委員会の皆様で共有する必要があるかと感じるところであります。大きな視点、あるいはその方向性だけでも構いませんので、これからの学びについての皆様のご意見を是非お聞かせいただきたいと思います。

それでは、松野教育長職務代理からお願いいたします。

【松野教育長職務代理】

時代や背景を見ていきながら学習指導要領が策定されているので、先を見据えながらやっていかなければいけないというのは、間違いないところだと思っているところです。平成 29 年に出された要領については主体的で対話的で深い学びとありますが、これを実施していく中では、個別最適な学びも必要ですし、これから先の予測困難な社会に対応した学びが非常に大切になってくとも感じるところです。いろんな困難があっても、生き抜く力を育む体制づくりが学習の中でも必要になっていくんじゃないかと思っています。地域での体験学習、文化交流を通して、一緒に学び合うことで、これから先は、AI もどんどん進んでいって高度に発達する社会の中でも、実際に触れ合っとも一緒に学び合うというのが、まだまだ大事になってくると感じているところです。

もう 1 つ、いろんな面で子どもたちを育てる意味でその子どもたちの学びを進めていく上で、失敗しても立ち直って成長して欲しいとか、或いは自分の力で道を切り開いて欲しいとか、そういったことはやはり望まれているというのは間違いないことじゃないかなと思います。

しなやかなたくましさ、自己肯定感をしっかり持たせて、そしていろんなことを経験させていながら、一緒に学び合い、いろんな困難にぶつかっても、みんなで学び合う中ではね返していくというそういった力をつけることが、これから先大事になってくるんじゃないかなと思います。

以上です。

【宮島市長】

ありがとうございます。

次に古賀委員お願いいたします。

【古賀委員】

学校が自分の意見や気持ちを安心して先生に伝えられる場であって欲しいと思いますし、先生たちの声かけで子どもたちにとって居心地が良くなるといいなと思いました。また、楽しい授業、わくわくする授業が子どもたちの主体的な学びにもつながると思います。

あともう一点は適切な時期に必要な経験や体験を積ませるような学習も大事だと思いました。

【宮島市長】

ありがとうございます。

次に、中村委員お願いいたします。

【中村委員】

子どもを伸ばすこれからの学びということで、動機付けやそういう機会を作るという観点からお話をさせていただければと思います。

子どもが伸びるかどうかはその子自身がこうなりたい、これを学びたいなど、自分スイッチが入って、自発的・内発的な動機があるといいと思いますし、先生や外部の方を含めた方との出会い、職場体験などの機会を作ることすごく大事だと思っています。そういった経験を通して、先生や親に感謝をすることで、子どもの成長にもつながり、学びの動機付けになっていると感じています。

それが1つと、グローバル教育や英語の教育の重要性です。英語教育に恵まれた環境にあり、米軍基地の学校との相互交流など、生のコミュニケーションで、佐世保の土地柄を生かした教育ができるというなと思っています。

【宮島市長】

どうもありがとうございます。

引き続きまして、西沢委員、お願いいたします。

【西沢委員】

「子どもを伸ばすこれからの学び」ってすごく難しいというか、答えが出ない課題だと思っています。そこで、ちょっと視点を変えて、先生たちの個人の努力や工夫は必要と言ったところはベースにあるんですけど、そもそも子どもが勝手に伸びていく学びの仕組みを作った方が早いんじゃないかなと思いました。

カリキュラムマネジメントというのを、各学校で行っていると思うんですけども、そのカリキュラムマネジメントっていうのは、何に力を入れて、どのように子どもに質の高い教育の機会を与えるかというというのは各学校で判断していると聞いています。その仕組みの中に行政であったり、家庭・地域・社会が入り込んでいくようなルールを敷けないかなと個人的にすごく思いました。先生たちだけで頑張るというよりももっと巻き込んで、こちらから一緒にやっというムードを作って、フォローしていくことで、よりいい影響があるんじゃないかなと思いました。

【宮島市長】

ありがとうございます。

それでは教育長の方からお願いいたします。

【陣内教育長】

難しいですね。

「子どもを伸ばすこれからの教育」という革新的で難しいテーマですけど、方向性ははっきりしている

んだらうと思っています。

今こういった流れになっているかということ、調和の取れた全人格的な感性を目指し、先生は生活指導も道徳もするし、休み時間の遊び相手もするし、友達との触れ合い方やご飯の食べ方も教える。そんなにするから働き方改革なんてできないとなるとも言われていますが、敢えてこの日本型学校教育を続けていこうと決意しました。欧米型と同じように目的ごとに学校で教育していくとすれば、処遇も、働き方改革も 1 度に改善できたけど、これは絶対に捨てませんという覚悟がまず日本型学校教育の今の流れかと思えます。

ただ、自分で目標設定し振り返り、責任を持って行動する力を身につける、学習内容を勉強するんじゃないくて、文章の構成を見て、それを自分の表現の中に活用できる、そういった能力も必要とされていると感じています。

西沢委員がおっしゃいましたが、勝手に育っていかないとだめなんです。子どもたちがやる気スイッチを入れて、自発的にできるかということです。

そのモデルカリキュラムを作ってやっていくのも、それをつくれる能力を教員が持っていかなければならない、それが日々の授業に反映されなければならないと思っています。ここがとても難しいので、学習指導要領の改訂の中にもそこをどう具体化するか、どんなふうにしていけばこんな力がつくんだというのをどう見せていくかということにすごく苦勞されています。ですから、今回の学習指導要領の改訂がどのような形で示されていくか、とても興味がありますし、そこをしっかりと私たちが研究して、行政の責務として先生たちのサポートカリキュラムについて揃えられるところは揃えてあげなければいけないし、揃えずに一人一人に任せなければならない部分があるんでしたら、そこは任せられるような教職員の資質能力を作ってあげなければならないという、とても大事な局面に今来ていると、不安や危機感を大きくしています。

#### 【宮島市長】

先ほど中村委員の方からちょっと、グローバル教育・英語教育の話がありましたので、一言だけお話をさせていただきたいと思えます。

この政策に至った経緯といたしましてはこの佐世保が、歴史的に見てもアメリカに近い町であるということ、またそのような環境にあるということ踏まえれば、非常に英語教育というものに親和性のあるものではないかなというふうに思いながら、それを生かした教育というものを是非やりたいというような思いもございます。

もう一方では、やはり今の日本の英語教育の中で、私どもの時代は、中学校から、高校大学と、英語教育を学んだにもかかわらず、英語が話せないというのは何だろうというのが一番の疑問でもあったわけでありませう。

それはやはり、語学というのは言うに及ばず、やはりコミュニケーションを取るためのツールでありますので、やはりコミュニケーションを取れなければ、いわゆる話せなければ、やっぱり意味がないと思えます。そういう意味からも日本の英語教育の中での大きな問題点というものが、これまであったんじゃないかなというふうに思えます。コミュニケーションが取れるような環境にあるということを生かして、英語教育というものを進めていければというふうに思っておりまして、これも教育委員の皆様方のいろいろなご支援もいただきながら、積極的にこれから取り組んでいきたいなと思っております。

また、人材の確保においても教育というレベルを上げていくというのは、極めて重要なことだと改めて感じております。

最初の話に戻れば、やっぱりそういう意味では、教育は人をつくるという意味、またもっと言えば先ほど申し上げました通りに、人口減少に歯止めをかけるという意味でも、重要な課題だと思っておりますので、これから、私も教育の充実に向けて改めて取り組んでいきたいというふうに思っておりますので、どうぞ今後ともご指導をよろしくお願い申し上げます。

以上をもちまして、本日の第 2 回総合教育会議を終了させていただきたいというふうに思いますが、改めて皆様方にはお忙しい中、本日はお集まりをいただき、誠にありがとうございました。

これまで大変貴重なご意見をいただきましたけれども、またいいアイデアもたくさんいただきましたので、そうしたものを教育委員会を中心といたしまして、私も是非積極的に取り入れながら、これからの本市の教育の充実に取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。

まだまだ寒いようでありますので、くれぐれもお体ご自愛くださいますことをお祈りを申し上げます。本日の最後のご挨拶とさせていただきます。

誠にありがとうございました。

閉会